

医療用品 04 整形用品

高度管理医療機器 歯科用インプラントフィクスチャ (42348000)

カムログインプラント

再使用禁止

【禁忌・禁止】*

<適用患者>

次の患者には使用しないこと。

- ・ 本品の成分及び類似成分に対して過敏症の既往歴のある患者
- ・ インプラント埋入部位の骨質・骨量がインプラントを支持するのに不十分な患者。[オッセオインテグレーションが得られず、脱落等の恐れがある。]
- ・ 出血性素因を有する患者。[異常出血を起こす恐れがあり、手術部位の治癒が不良になる恐れがある。]
- ・ コントロールされていない糖尿病患者。[手術部位の治癒不良及び易感染性が高まる恐れがある。]
- ・ 一般的な口腔外科手術が禁忌とされる患者。[侵襲により疾患の悪化、既往症の再発もしくは術後の手術部位の治癒が不良になる恐れがある。]
- ・ 骨の成長過程が完了していない患者。[顎骨形成不良の要因となる恐れがある。]
- ・ 悪性腫瘍等により放射線照射や化学療法を受けている患者。[手術部位の治癒が得られない恐れがある。]

<使用方法>

- ・ 再使用禁止
- ・ 再滅菌禁止

【形状・構造及び原理等】

1. 形状・構造

患者の顎骨内に埋入するフィクスチャで、専用のプレースメントヘッド及び埋入ホルダーがついている。直径ごとにカラーコード化されており、形状と寸法は本体包装ラベルに記載されている。

直径：3.3～6.0mm(直径 3.3mm はスクリータイプのみ)
全長：9～16mm(直径 3.3mm は 11～16mm)

構成品		外観
①	スクリータイプインプラント	
②	ルートフォームインプラント	
③	ヒーリングスクリー	
④	プレースメントヘッド	

2. 原材料 **

①②④	純チタン(DIN ISO 5832-2 Gr. 4, 及び ASTM F 67 に相当)
③	チタン合金

【使用目的又は効果】

インプラント補綴治療において人工歯根として使用する。

【使用方法等】

1. 使用方法

本品は、埋入位置の骨量によりフィクスチャの直径及び長さを選択して使用する。本品はインプラント治療の外科処置を 2 回に分けて行う二回法術式を採用している。二回法術式の標準的な流れは次のとおりである。

一次手術：インプラント窩の形成とフィクスチャの埋入



・ 形成前の顎骨



・ 形成後フィクスチャを埋入

二次手術：フィクスチャ上部の歯肉粘膜の開窓と上部構造の装着



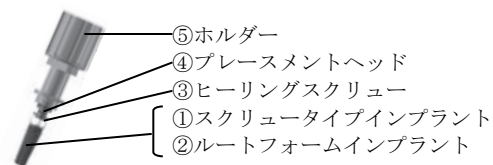
・ 上部歯肉の開窓



・ 上部構造の装着

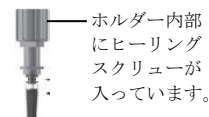
本品の使用方法的概略は次のとおりである。

[第 1 ステージ]

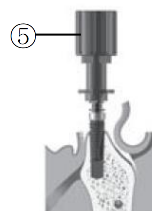


1. 通法どおり切開、剥離により粘膜骨膜弁を形成し、歯槽骨を露出させる。
2. 専用のドリル類で骨の穿孔を行う。
3. フィクスチャの包装をはずす。

※ヒーリングスクリー③はホルダー⑤の上部に入っており、埋入後のフィクスチャにねじ込んで装着する。

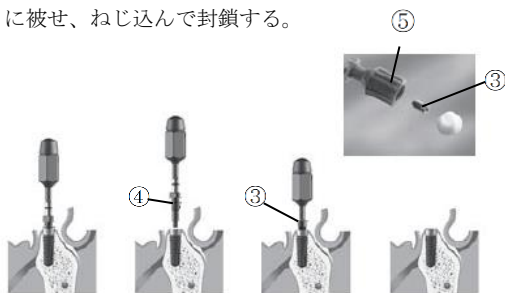


4. フィクスチャを顎骨内に挿入し、ホルダー⑤をはずし、適切なスクリータイプ用埋入ツール(※a)を選択しねじ込む。



(CA ハンドピース用) (手用/ラチェット用)

5. プレスメントヘッド④をはずし、次いでホルダー⑤からはずしたヒーリングスクリュー③をフィクスチャに被せ、ねじ込んで封鎖する。



6. 粘膜骨膜弁を被せ、通法どおり縫合する。



[第2ステージ]

1. 第1ステージの予後の状態が良好であることを確認する。
2. フィクスチャ上部の歯肉粘膜を開窓する。通法どおり印象を採得し、技工操作において上部構造物を作製する。
3. 完成した上部構造物を口腔内に装着する。

2. 併用医療機器(※)

	販売名	届出番号
a	カムログ インプラント手術器具	27B1X00027000012

[使用方法に関連する使用上の注意]*

- (1) 術前にX線検査（パノラマ、CT等）を用いて解剖学的構造とインプラント体埋入予定部位の形状などを三次元的に診断し、骨質、骨量、骨形態の検査を行い、重要な組織への配慮を含めた臨床的評価を行うこと。
- (2) 設計においては、インプラント及びアバットメントへの負荷を十分に考慮し、必要な本数とサイズを選択すること。
- (3) インプラント埋入窩を形成する前に埋入部位の計測を行うこと。
- (4) 埋入窩の形成には適切なインストルメントを用いること。
- (5) 皮質骨の割合の多い骨へのフィクスチャ埋入は大きなトルクを必要とすることがある。そのような場合には、埋入窩を最終のフォームドリルで形成した後、同径のコーチカルボーンドリルとスレッドカッターを使用することを推奨する。
- (6) 各ドリルは20回程度の使用を目途に交換することを推奨する。
- (7) スレッドカッターでタップを切った骨にインプラントを埋入する場合、最初に左方向に回転させタップの溝が感じられてから右方向に回転させ埋入してゆく。
- (8) ドリリングやインプラント体埋入時には、周辺組織への穿孔や損傷に注意すること。
- (9) 折損、変形などの原因になるため必要以上の力を加えないこと。
- (10) アバットメント等を装着する際は、フィクスチャの内面を十分洗浄すること。
- (11) 術中は患者の全身のおよび口腔内の状態を監視し、異常が認められた場合は治療の中止等を含め、患者の安全を確保すること。
- (12) 術後の定期的な診査を行い、必要に応じて適切な処置を講ずること。

【使用上の注意】*

[使用注意（次の患者には慎重に適用すること）]

- (1) 咬合障害、パラファンクション（ブラキシズム等）を有する患者。[インプラント体や補綴物の破損により外傷が生じ、再手術が必要になる恐れがある。]
- (2) 周術期の喫煙者。[手術部位の治癒が得られない恐れがある。]
- (3) 放射線治療の既往歴がある患者。[手術部位の治癒が得られない恐れがある。]
- (4) ビスフォスフォネート系薬剤の投与患者。[顎骨壊死、顎骨骨髓炎があらわれることがある。]
- (5) 長期間に及ぶステロイド療法実施患者あるいは抗凝固薬、抗血小板薬を使用している患者。[手術部位、周囲組織、又は患者の治癒機能に影響する場合がある。]
- (6) 免疫抑制薬を使用している患者。[手術部位の治癒及び予後に影響する場合がある。]
- (7) 治療に非協力的な患者、口腔衛生管理・術後管理ができない患者。[術後のケアが困難になる恐れがある。]

[重要な基本的注意]

- (1) インプラント治療を行う際には、「口腔インプラント治療指針」（公益社団法人日本口腔インプラント学会編）等の最新情報を参考に行うこと。

[相互作用]（他の医薬品・医療機器等との併用に関すること）

<併用注意>

- (1) 電気メス・高周波メス等は手術時にインプラント体に接触しないように注意すること[意図しない発熱やスパークが発生する恐れがある。]

[不具合・有害事象]

本インプラント治療に伴う合併症は下記のものが含まれるが、それだけに限局されるものではない。

<不具合>

- (1) フィクスチャまたは補綴物等の破折
- (2) フィクスチャの脱落

<有害事象>

- (1) 過敏症状
- (2) 疼痛や腫脹及び感覚障害等
- (3) 局所的・全身的感染症

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者： 株式会社アルタデント
大阪府大阪市北区芝田 2-8-31
電話 06-6377-2221

製造業者： Altatec GmbH(アルタテック GmbH)
ドイツ